

動物の診察・治療を行う際には、飼い主様のご協力が不可欠となります。

動物病院には様々な事情・状態の動物たちが来院します。

受診される前にご確認いただきたい点を挙げさせていただきます。

ご覧になってからお越し頂けますと幸いです。

#### <来院時の注意事項>

##### ● 犬の場合

首輪、ハーネスをつけて、キャリーに入れるか、リードをつけてお越しください。

待合室でフリーにさせることはおやめください。(他の犬が苦手な犬や猫も来院します)

ケンカや感染を防ぐため、病院内ではリードを極力短く持ち、動物同士を接触させないようにしてください。待合室で排泄した場合は、拭かずにスタッフまでお知らせください。

##### ● 猫の場合

キャリーバッグに入れてお越しください。臆病な猫の場合には、大きめの洗濯ネットに入れた上でキャリーに入れ、外が見えないようにキャリーを覆うこともおすすめです。

ケンカ・逃走・感染を防ぐため、待合室ではキャリーケースやネットから出さないで、診察室に入ってから出してあげてください。

#### <体調不良での来院時>

##### ● 嘔吐・下痢の場合

一番新しい嘔吐物、便を持参して下さい。その際ラップなどに包んでいただけると助かります。複数回している場合は、スマホで写真を撮っていただけると診察の参考になります。

##### ● 血尿の場合

持参できる場合はお願いします。難しい場合は、スマホで写真を撮っていただけると診察の参考になります。また、頻尿の場合を除いて尿がたまっている状態でお越しいただけると助かります。

##### ● 咳・くしゃみ、震え・けいれん・発作などの場合

来院時には症状がおさまっている場合が多いと思います。咳やくしゃみ、震えやけいれん、発作などの症状がみられた際には、動物の安全を確保した上、スマホで動画の撮影をお願いします。

##### ● 皮膚病の場合

診察前にシャンプーをしたり、消毒や軟膏を使うことは避けてください。正しく診断や検査が行えない可能性があります。もし行っている場合は、いつ頃行ったかを診察の際にお伝えください。

- 出来るだけ普段の生活がわかる方のご来院をお願いします。

動物は自分で話すことができません。診察時に「いつから具合が悪いのか」「いつもとどんな風の様子が違うのか」「食欲や排泄はどうか」「普段食べているフードやおやつは何か」など大小様々なことをお聞きします。できるだけ普段の様子を知っているご家族がご一緒に来院されて下さい。

また、お連れいただく動物の受診前の状態や、症状の把握に役立つ資料やメモ、手帳、日記などございましたら、参考になりますので是非お持ち下さい。

もし、どうしても代理の方しか来院できない場合、特に上記のような資料をお持ちください。また、来院時に普段お世話されている方と連絡がつくようにして頂けると、大変助かります。

※ 代理の方のみの場合、治療内容・費用などの決定をしていただけない場合があります。

### <予防接種での来院時>

- 予防接種後、まれにアレルギーなどの体調不良が起こることがあります。ご家族が寝てしまう夜にそのような変化が出ないよう、午前中にワクチンを打ち、午後は様子を見ていただいた方が安心です。やむをえず午後しか来院できない場合には、できるだけ早い時間にご来院下さい。
- ワクチン接種前後 1～2 日はシャンプーや激しい運動、いつもと違うことなどは避けるようお願いいたします。特に当日はアレルギーを起こす確率が高くなるため、シャンプー後の接種はお受けできない場合があります。

### <普段からおうちでお願いしたいこと>

#### • 全身チェック

普段から体の色々な部分を触る(お腹・足先・耳などを触る、口を開けるなど)練習をしてみてください。出来ると病気の早期発見が可能となります。また、治療の際の投薬の種類や・治療方法の選択肢が広がります。

#### • 便・尿・体重のチェック

便は食事内容によって、尿は飲水量によって日々変化のあるものです。量や質、回数などを普段から観察することで早期に異常に気づくことができます。

また、体重の増減も個々によって違います。季節によって増減がある子もいれば、ほぼ1年中変化のない子もいます。きちんとした食事量を変わずとっているのに痩せるようなことがあれば、症状はでていなくても病気の可能性があります。

月に1回、難しければ季節ごとに1回測定できると良いでしょう。

- **フードやおやつ**の把握

普段食べているフードの量(g)やおやつの種類や量、いつ開封したかなどをできるだけ把握しておいてください。特に下痢や嘔吐などの消化器症状の場合は、食べているものが原因であることもあります。

基本的にはドライフードは開封後 1 カ月以内に食べきるようたいのメーカーが推奨しています(無添加フードなどはさらに短い場合もあります)。1 カ月以内に食べる量にあったサイズのフードのご購入をおすすめします。

<処方薬・処方食についての注意事項>

- **処方された薬**について

処方された薬については、一部を除き必ず処方された日数・回数を守ってお使いください。特に抗生物質などは自己判断で途中でやめしまうと耐性菌の原因となり、将来的に処方した犬猫だけでなく、同居の犬猫や飼い主さん自身の耐性菌の原因にもつながります。処方された薬が飲ませられない、つけられないというような場合はご相談ください。

- **処方食(療法食)**について

処方食とは特定の疾患に対応して原材料や成分が調整されたペットフードのことです。一般のフードと異なり、治療の一環として処方されるフードになります(食事療法)。最近では処方食を一般のホームセンターやネットショッピングなどで購入できる環境にあります。しかし、処方食には総合栄養食としての基準を満たさないものもあり、一般の子が長期食べると健康に影響がでる場合があります。ご自身の判断で与えることはおやめください。病院で勧められた場合も、その後ご自身で購入されている場合は診察の際に必ずその旨をお伝え下さい。使用の有無や使用しているフードによって治療方針が変わることもあります。基本的には病院もしくは正規の療法食販売専用サイトでのご購入をお願いいたします。

最後に・・・

人と異なり動物は自身で薬を飲んだり、安静にしたりはできません。どうしても治療にあたっては飼い主にやっていただくことが多くなります。

また、診察時に色々ご質問することも多いと思います。飼い主さん自身もわからないことや疑問に思うことがあったら、遠慮なく相談してください。

病気や怪我のことだけでなく、言葉が難しい、聞き取れなかった、前に聞いたが忘れてしまった、治療費についてなども気軽に質問してください。

ご協力よろしくお願い致します。



おおたけ動物病院

